

目 次

■まえがき	1
■編集方針・凡例	2

序 章 前 史

第1章 本草学から生物学への移行

*資料

1-1 博物学(序論)	20
1-2 日本における植物学の進歩	21
1-3 日本における植物学の歴史について	23
1-4 本邦博物学起源沿革説, 同統, 同拾遺	25
1-5 植物学	31
1-6 博物館	32
1-7 田中芳男君の経歴談	32
1-8 維新前の昆虫学等に就て	34
1-9 慶応3年パリ世界大博覧会出品の日本産昆虫標本に対する批評	35
1-10 カール・ヨハン・マキシモヴィッチの伝	37
1-11 林娜氏植物綱目表	39
1-12 埜甘度爾列氏植物自然分科表	40
1-13 草木乾腊法	42
1-14 植学浅解初編	43
1-15 植学訳筌	44
1-16 動物学初篇哺乳類	51

第2章 研究体制の整備

*資料

2-1 博物学(動物学)	58
2-2 博物学(植物学)	60
2-3 故理学博士矢田部良吉君ノ略伝	61

2-4 明治十二年度生物学科各学年の学科課程および受持教授	63
2-5 明治十三年度植物学教授細目	64
2-6 植物学教授矢田部良吉申報	65
2-7 動物学教授箕作佳吉申報	65
2-8 小石川植物園事務管理久原躬弦申報	66
2-9 小石川植物園創始沿革	67
2-10 動植物学助教授松原新之助申報	68
2-11 動植物学准講師練木喜三申報	68
2-12 植物学教員安本徳寛申報	69
2-13 動物学教員波江元吉申報	69
2-14 東京大学における動物学	69
2-15 東京大学生物学会ならびに東京動物学会記録	71
2-16 東京植物学会略史	74
2-17 東京動物学会の事	75
2-18 動物学雑誌ノ発兌	76
2-19 三崎の帝国大学臨海実験所	78
2-20 相州三崎帝国大学臨海実験場	80
2-21 普通植物学	81
2-22 普通動物学	82
2-23 日本植物名彙	83
2-24 植物学語鈔	85
2-25 生物学語彙	86

第3章 初期啓蒙活動から原著的研究

へ

第1節 生物学の改革

*資料

3-1 本草家採集貯蔵の植物を公表すべし	92
3-2 何故ニ植物ノ漢名ヲ用フルヤ	92
3-3 日本植物志図篇	93
3-4 牧野富太郎著日本植物志図篇第一	

	卷第一集及第二集批評	94
3-5	動物学ノ主旨	95
3-6	東洋植物学ノ一大改革ヲナサザル 可カラズ	98
3-7	高等教育植物細胞学講義	100
3-8	欧洲植物学輓近之進歩	101
3-9	明治二十八年度「普通植物学」講 義教案, 明治二十九年度「植物生 理学」講義教案	102
3-10	欧米ニ於ケル動物学現今ノ景況	103
3-11	実験動物学に就て	106
3-12	博物学的植物学及び精密学的植物 学	108
3-13	化学ト医学トノ関係ヲ論ス	110
第2節	博物学のすすめ	111
	*資料	
3-14	『昆虫世界』の発刊	114
3-15	『博物学雑誌』の発刊	115
3-16	植物病理研究所設置建議案	119
3-17	名和昆虫研究所の設立	119
3-18	生物界現象と社会現象との比較	121
3-19	万朝報の一記事につきて	126
第3節	原著的研究の出現	127
	*資料	
3-20	泰西植物学者諸氏に告ぐ	132
3-21	平瀬氏『公孫樹精虫』ニ就テ	133
3-22	平瀬作五郎及理学博士池野成一郎 授賞ニ関スル審査要旨	134
3-23	外山亀太郎のカイコの遺伝研究	136
3-24	北里柴三郎の破傷風菌純培養の成 功	139
3-25	腺ベスト菌(予報)	141
3-26	赤痢病原研究報告	145
3-27	ビタミンBの発見	149
第4節	植民地の生物調査	151
	*資料	
3-28	校正大日本植物帯調査報告	153
3-29	台湾植物目録	155
3-30	樺太植物調査概報	156
3-31	北海道に於ける両棲類及び爬虫類	160

第4章	進化論と思想	165
第1節	進化論の紹介	168
	*資料	
4-1	日本その日その日	170
4-2	動物進化論	173
4-3	人生と社会	178
第2節	進化論にもとづく文明批評	186
	*資料	
4-4	人類の誇大狂	190
4-5	人類の将来	193
4-6	電車の進化	203
4-7	家族制限策の進化	209
第5章	農業生物学	215
第1節	作物育種学の近代化	216
	*資料	
5-1	日本近代作物育種学	217
5-2	伊勢錦, ちわら早稲	222
5-3	農事講演集	224
5-4	栽培汎論	226
5-5	農業種子学	231
5-6	作物品種改良論	234
第2節	植物病理学	236
	*資料	
5-7	白井光太郎博士の述懐談	239
5-8	胡瓜の葉を害するべト病の原因及 び其予防法	239
5-9	植物病理学	241
5-10	農事試験場病理部の設置	242
5-11	日本植物病理学	244
5-12	萎縮病稲試験成績	245
5-13	麦奴ニ関スル研究	247
第3節	応用昆虫学	250
	*資料	
5-14	益田素平の螟虫に関する研究活動	252

5-15	『昆虫雑誌』と『昆虫世界』……………	253
5-16	日本昆虫学会の創立と『昆虫学雑誌』の発刊……………	255
5-17	『日本害虫篇』と『日本昆虫学』……………	256
5-18	ウンカの大発生と注油駆除……………	258
5-19	べだりあ瓢虫・いせりや介殼虫ニ関スル研究成績摘要……………	259
5-20	昆虫学汎論……………	260
5-21	大正中期の昆虫学に関する一般的書籍……………	262

第6章 研究体制の発展…………… 265

*資料

6-1	遺伝学講座新設申請書……………	277
6-2	東大理科大学植物学科ニ於ケル遺伝学講座ノ新設——野村家ノ美挙……………	278
6-3	植物生理化学講座新設立理由書……………	279
6-4	増設された各大学の生物学教室……………	280
6-5	東京大学理学部動・植物学科の学科課程の変遷……………	290
6-6	瀬戸臨海実験所の設立……………	292
6-7	日本ニ樹木園ノ設立ヲ望ム……………	294
6-8	竹尾結核研究所の創立……………	297
6-9	北里研究所設立趣旨……………	298
6-10	医学教育の革新……………	299
6-11	『植物及動物』の創刊……………	303
6-12	本邦ニ於ケル医化学沿革ノ梗概……………	304
6-13	遺伝学研究所設立趣意書……………	306
6-14	日本遺伝学研究所設立の提唱……………	307
6-15	名木ノ伐滅并ニ其保存ノ必要……………	312
6-16	天然記念物の毀損……………	315
6-17	史蹟及天然記念物保存ニ関スル建議案……………	316
6-18	天然記念物保存事業と渡瀬庄三郎……………	318

第7章 独創的体系の出現…………… 321

*資料

7-1	遺伝子「イッド」ノ概念及ビ其ノ変化性ノ問題ニツイテ……………	328
7-2	乗り換への染色体的基礎……………	333
7-3	ゲノムアナリシスに就て……………	342

7-4	家蚕のゲン-ホルモンに関する研究 ……	345
7-5	加藤元一の神経の不滅衰伝導学説……………	349
7-6	柴田桂太の植物界に於けるフラヴォン族化合物の研究……………	351
7-7	チトクロームの作用機構に就て……………	352
7-8	藪田貞治郎・住木諭介のジベレリンの発見……………	357
7-9	山極勝三郎・市川厚一の人工ガンの成生……………	359
7-10	実験的癌成生の研究に就て……………	360
7-11	トリプトファン中間代謝領域ニ於ケル余等ノ研究……………	364
7-12	早田文蔵の動的分類体系の提唱……………	369
7-13	生物群聚と生物社会……………	372
7-14	両棲類初期形態分化の機構に関する一考察……………	375

第8章 生物学と思想…………… 381

*資料

8-1	キリンの斑模様についての論争……………	387
8-2	機械論的生命観の仕上げと反省……………	394
8-3	理論生物学の提唱……………	405
8-4	大東亜戦争と遺伝学……………	409
8-5	戦争と遺伝学……………	410
8-6	生理学的戦争観……………	411
8-7	生存競争と民族主義……………	413
8-8	戦争と進化論……………	415

第9章 窮乏の中での再出発…………… 425

第1節 “民主主義革命”と生物学者…………… 427

*資料

9-1	民科生物学全国部会結成報告……………	430
9-2	第1回生物科学シンポジウム報告……………	431
9-3	京大動物学教室の民主化……………	434
9-4	資源科学研究所の研究組織……………	438

第2節 ルィセンコ論争…………… 440

*資料

9-5	生物学への反省……………	442
-----	--------------	-----

9-6	メンデルイズムとリュセンコ学説……………	444	10-5	国立癌センターについて……………	509
9-7	下伊那のミチューリン運動……………	447	10-6	蛋白質研究所の設置について……………	510
9-8	創造的ダーウィニズム……………	449	10-7	生化学機関研究費の配分——文 部省科学研究費……………	512
第3節	酵素化学の進歩……………	452	10-8	武田薬品新研究所定礎銘……………	513
*資料			10-9	科学技術会議諮問第1号答申中 の農学系科学技術政策について……………	514
9-9	適応酵素の研究……………	454	第3節	新しい制度・新しい学会……………	516
9-10	硝酸還元酵素の研究……………	462	*資料		
9-11	チトクロームCの精製と結晶化……………	465	10-10	生物学盛んにして生物学者衰う……………	518
第4節	生態学の展開……………	469	10-11	生物物理学会の準備委員会決定 事項および設立趣意書……………	524
*資料			10-12	他学部出身者の医学部への受入 れに関する解剖学会総会決議……………	525
9-12	植物群落における光要因とその物 質生産に対する意義について……………	470	10-13	東京大学生物化学科設置案説明書……………	526
9-13	植物生長の理論……………	474	10-14	名古屋大学生物学教室の新しい 試み……………	528
9-14	個体の分散の測定と分布様式の解 析……………	477	10-15	東京都立大学生物学科新カリキ ュラム……………	529
第10章	現代生物学の frontline……………	483	第4節	分子生物学への道……………	532
第1節	生物学の戦略……………	487	*資料		
*資料			10-16	筋収縮と筋蛋白の物理化学……………	534
10-1	生体の化学……………	489	10-17	腸内細菌の薬剤耐性とその遺伝……………	537
10-2	遺伝子の作用と本質……………	490	10-18	大沢省三・三井宏美らのリボソ ームの合成……………	543
10-3	バイラスの化学的・物理的研究……………	493	■年	表……………	547
第2節	科学技術振興政策と生物学……………	495	■参考文献目録……………	567	
*資料			■索	引……………	571
10-4	10年後を目標とする科学技術振興 方策……………	497			

